

|                               |   |               |                    |
|-------------------------------|---|---------------|--------------------|
| [科目名]<br>教育心理学                |   | [単位数]<br>2 単位 | [科目区分]<br>教職科目(必修) |
| [担当者]<br>鈴木 郁生<br>SUZUKI Ikuo | [オフィス・アワー]<br>時間：授業開始時に明示します。<br>場所：614 研究室 |               |                    |

#### [科目の概要]

教育心理学とは、教育に関わる様々な問題について、心理学的な観点から客観的に検討する学問である。本科目では、教育実践の基礎となる教育心理学の理論や知識について幅広く学んでいく。理論と聞くと難しいような印象を受けるかもしれないが、教育という世界に多くの興味深い問題が隠されていることに気付いてもらえるだろう。

具体的には、発達、学習、適応、評価という教育心理学の基礎領域について学ぶ。発達領域では、乳幼児から青年期までの心身の発達について、学習領域では人間の記憶や認知などの学習過程の基礎及び教授法について学ぶ。そして適応領域では学級集団への適応や障害の問題などを、評価領域では学力の評価等に関わる問題を扱う。

この授業を通して教育心理学の様々な内容に触れ、その知識を教育実践の場で効果的に役立てられるようになることを期待する。

#### [「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか]

本科目は、教育職員免許法に定められた「教育の基礎理論に関する科目」である。そのため教員免許取得のための必修科目となっている。

教育実践の場に立つためには、ただ教える教科の内容や技術だけを学ぶだけでは不十分である。そこで本科目において、その実践の支えとなるような理論、根拠となる知識について学ぶ。例えば、幼児・児童または生徒と向き合うためには、その年代の子どもの心身の発達についての知識が役に立つだろう。あるいは記憶や学習過程への理解は、子ども達の学習を効果的に支援するために必要となる。

このように、本科目で学ぶ内容は、教育の基礎として重要な意味合いを持っている。免許種別にかかわらず、学習に励んでもらいたい。

#### [科目の到達目標(最終目標・中間目標)]

本科目の到達目標は、教員として必要とされる教育心理学の基礎知識を説明出来るようになる事である。授業の展開上、まず中間目標として、乳児期から青年期までの心身の発達についての理解を掲げる。授業の後半では、学習や適応の問題について重点的に学習し、教育心理学全般への理解を深めていくこととする。

#### [学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]

授業評価では、概ね肯定的な評価をしてもらっている。

また教室環境に、より気を配っていくつもりである。

#### [教科書]

使用しない。

#### [指定図書]

桜井茂男 「たのしく学べる最新教育心理学—教職にかかわるすべての人に」 図書文化社, 2004 年

藤田哲也 「絶対役立つ教育心理学 実践の理論、理論を実践」 ミネルヴァ書房, 2007 年

藤田主一・楠本恭久 「教職をめざす人のための教育心理学」 福村出版, 2008 年

## 〔参考書〕

授業時に適宜紹介します。

## 〔前提科目〕

なし

## 〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

試験を行う。また授業中に課題(小テスト)を課す予定である。

## 〔評価の基準及びスケール〕

期末試験や小テスト等により、総合的に評価する。

- A: 100~80 点
- B: 79~70 点
- C: 69~60 点
- D: 59~50 点
- F: 49~ 0 点

## 〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

教育心理学について、ただ知識として伝えるのではなく、そのような知見が得られた過程についても話していくつもりである。受講者は、用語や理論をただ暗記するのではなく、その根拠や研究過程についても理解するよう心掛けて欲しい。また受講者の理解が進むよう、具体的な例を挙げながら授業を進める予定である。受講者も好奇心を持ち、自らの経験等に照らしながら学習を行ってもらいたい。

## 授業スケジュール

|     |  |
|-----|--|
| 第1回 | テーマ(何を学ぶか): 教育心理学の歴史と領域<br>内 容: 教育心理学の歴史とその領域について学ぶ。<br><br>教科書・指定図書   |
| 第2回 | テーマ(何を学ぶか): 発達に関する基礎理論<br>内 容: 発達段階や発達課題など、生涯発達に関わる基礎的理論・概念について学ぶ。<br><br>教科書・指定図書                           |
| 第3回 | テーマ(何を学ぶか): 乳児期・幼児期の発達的特徴<br>内 容: 乳児期および幼児期の身体および心理の両面から見た発達的特徴について学ぶ。<br><br>教科書・指定図書                       |
| 第4回 | テーマ(何を学ぶか): ピアジェの発達理論<br>内 容: 認知、思考に関するピアジェの発達理論の解説。感覚運動期・前操作期・具体的操作期・形式的操作期それぞれの特徴について概説する。<br><br>教科書・指定図書 |
| 第5回 | テーマ(何を学ぶか): 児童期の発達的特徴<br>内 容: ピアジェの発達理論を踏まえ、乳幼児期と児童期の発達的特徴を比較する。<br><br>教科書・指定図書                             |

|      |  |
|------|--|
| 第6回  | <p>テーマ(何を学ぶか):青年期の発達的特徴1<br/>内 容:青年期を取り巻く状況や青年期に生じる発達的特徴を通じ、青年期観を問題とする。</p> <p>教科書・指定図書</p>              |
| 第7回  | <p>テーマ(何を学ぶか):青年期の発達的特徴2<br/>内 容:自我同一性など、身体的にも心理的にも大きな変化を迎える青年期の発達的特徴について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>         |
| 第8回  | <p>テーマ(何を学ぶか):学習理論1<br/>内 容:条件付けを始めとする学習理論の基礎について学ぶ。その中でも、古典的条件付けに注目し解説を行う。</p> <p>教科書・指定図書</p>          |
| 第9回  | <p>テーマ(何を学ぶか):学習理論2<br/>内 容:学習理論の中でも、オペラント条件付け、観察学習などについて説明する。また、その応用についても考察する。</p> <p>教科書・指定図書</p>      |
| 第10回 | <p>テーマ(何を学ぶか):動機づけ<br/>内 容:内発的動機づけと外発的動機づけについて。またその関係について解説する。</p> <p>教科書・指定図書</p>                       |
| 第11回 | <p>テーマ(何を学ぶか):学習に関わる認知過程<br/>内 容:記憶・思考の基本的なメカニズム、および学習に関わる特性について紹介する。</p> <p>教科書・指定図書</p>                |
| 第12回 | <p>テーマ(何を学ぶか):学習・教授法<br/>内 容:集中学習・分散学習や受容学習・発見学習など、学習や教授の方法および評価に関する考え方について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>       |
| 第13回 | <p>テーマ(何を学ぶか):学習集団<br/>内 容:集団規範やソシオメトリーなど学習集団に関する基礎的知識の理解。</p> <p>教科書・指定図書</p>                           |
| 第14回 | <p>テーマ(何を学ぶか):障害のある児童・生徒の発達1<br/>内 容:障害についての基本的な知識を学び、障害についての広い理解を求める。</p> <p>教科書・指定図書</p>               |
| 第15回 | <p>テーマ(何を学ぶか):障害のある児童・生徒の発達2<br/>内 容: ADHD や LD など、教育現場と関わりの深い幼児、児童および生徒の障害について解説する。</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 試験   |  |